

写真で見る

富士山上行寺五十年史

上行寺開山四百四十五年
伊勢原開山五十年記念

上行寺創建四四五年伊勢原開山五十年客殿落慶記念

この度檀信徒の皆様の「ご盡力により、伊勢原開山五十年記念と致しまして、客殿新築事業が無事完了し、又境内の整備も終わり寺観も新たにすることができました。これ単に仏祖諸天の御冥護と檀信徒各位の絶大なるご高援の賜で、歡喜無量法悦の極みでございます。爰に謹んで厚くお礼申し上げますと共に六年もかかり「ご心配お掛けしたこと大変申し訳なく思っております。

昭和三十八年に伊勢原へ移転、開山前後の写真等有りましたので、簡単ではありますが、写真と私の記憶による五十年間の記録を御案内したく思います。

当時昭和三十五、六年頃は東京オリンピックという東京にとつても一大事業、東京大改造という時代にあり「先代日誠上人」四十歳前後の若さにして、移転という大事業に向かう気持ちを考えて、心によぎるものがあります。さらに写真資料を見るに付け、東京上行寺において何回にもわたる檀家総会で、色々な意見が飛び交ったのを小学生の童心に覚えています。上行寺は、創建以来四百四十五年間に相州小田原から江戸へ、さらに江戸市中を何回か移転し高輪が一番長くおりましたが、昭和三十八年正式に相州伊勢原に移転開山となりました。数少ない当時の写真ですが、東京の上行寺を覚えていらっしゃる方、また知らない方、木一本無い麦畑の中に再建された堂宇、今又立派な客殿が完成し現在がある、檀信徒の皆様と共に発展する上行寺と記憶していただければと思います。

当山繁栄伽藍相続、火盜公私諸縁吉祥、法燈高揚寺檀和融令法久住、檀方信徒の面々、各々資生産業皆順正法、家内安全子孫長久、菩提心增長護持山門、南無妙法蓮華經

平成二十六年八月

富士山上行寺三十八世 岩田 憲雄日意

東京高輪移転事業

東京上行寺本堂正面

雨が降ると向拝が近所の子供たちの遊び場になり懐かしいです



昭和 35 年頃

檀信徒専用の大玄関
(武家屋敷造)
横に大蘇鉄

昭和 35~6 年頃

下段墓地から移動の為階段をはずしソリで運び上げる

私達は下箱(シタバコ)の墓地と呼び階段が続くこの坂は当時の映画たしか黒猫はしている、という題名の映画の一部のいいシーンに出ました

味の有る石段の為いくつかの映画に使われました



昭和 36～7 年頃

住職閉眼供養中テレビで移
転報道



昭和 35～6 年頃

墓地移動解体 数原家

伊勢原に復元しなければならぬので番号を
ふり慎重に扱う

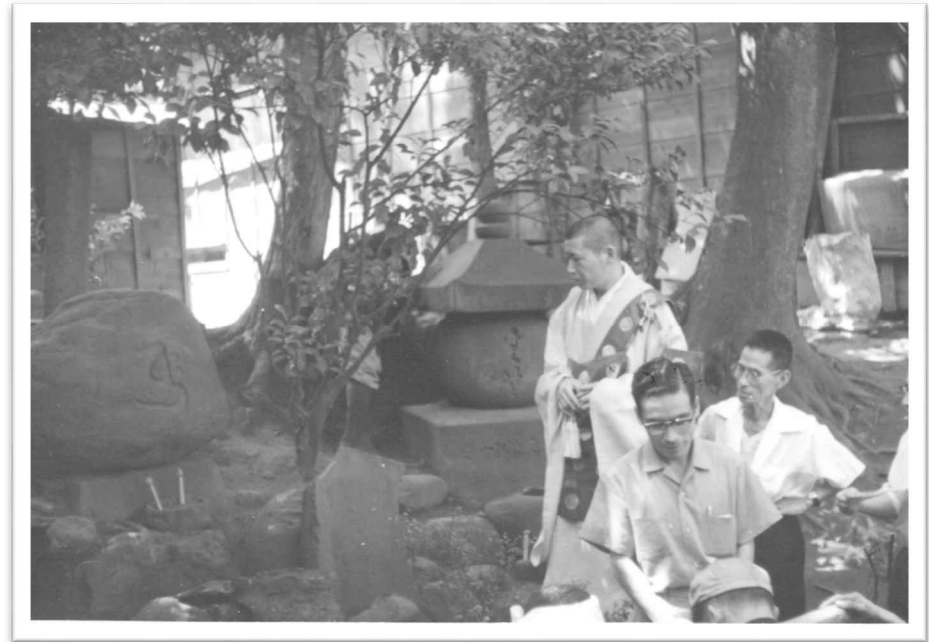
昭和 35～6 年頃

移転に向けて住職と本堂にて檀
信徒の調査打ち合わせ



昭和 35～6 年頃

東京で其角墓閉眼供養
思いにふける先代住職

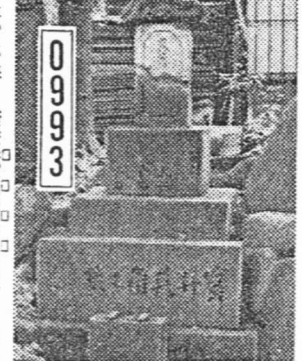


昭和 35～6 年頃

東京上行寺下段墓地
ソリに乗せ上段の墓地へ移動
下箱(シタバコ)の墓地から上
の境内地の二段にソリに乗せ
移動
正面に有る家は齊藤長太郎
家

移転事業を新聞にとりあげられる

港区の吉等が神奈川へ
東京都区部芝一本榎本町二
七の吉等というお寺がいま
安住の地を神奈川県に求め引
越し準備にいそがしい。こ
の寺には江戸ッ子俳人宝井其
角の墓をはじめ、将棋
の名人大橋宗桂、名
医といわれた桂川甫
周、狂歌師森澤亭万
象、映画でおなじみの丸橋忠
弥、鏡山はつこの墓もある。
四十七の埋葬ごころ
はじめ小田原にあったが、
徳川家康小田原征伐のとき
當時の住職日春
上人が剣の達人
であつたとか
ら江戸に招い
た。現住職岩田
智道さんで三十二
七代目。エビソ
ードが二つあ
る。一つはた
き彫りの有名な
四十七が刺腹したあと、泉
岳寺よりききにこの寺に埋
葬の依頼があつたのだと、こ
ういふ理由で、当時住職
が祈つた。あつた。二
本榎の墓の由来もある。二
九百平方、墓地は約千三百



引越し近い其角の墓
三月三十日に開か
れていた其角の追善句会も同
じようにつづけた。八月い
はいに引越すが、あつたは
貿易会社が高級分譲アパート
を建てあつて。

本方の墓は寺よりも約十
分低いので、ちょうど雨が降
ると水たまりになり、夏は力
の発生源。墓の掃除もきな
いというのが実情。惣家約
二百軒あるが墓を全面的に改
装することも資金不足
でできない。かくして
俗悪な都会からのがれ
ることにしたい。

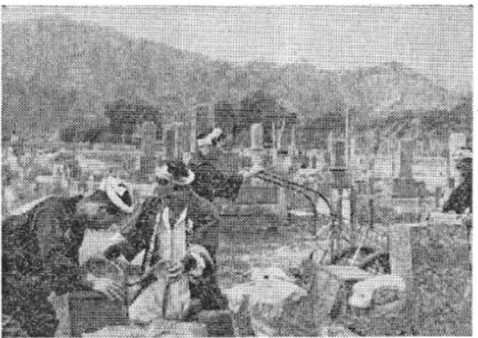
お寺の引越し
宝井其角の墓など
念願がかなうという。ときお
り花町の人がやってきて皮
をけすついている姿を見うけ
るが、この木もなくならそ
う。
あとには高級アパートが
あつた。岩田智道住職は
語る。「水がたま
るようになつて
お墓を放置してお
くのは仏さまに申
しわけない。それ
にどう交通がひん
ぱんな場所では落
ち着けない。毎年
三月三十日に開か
れていた其角の追善句会も同
じようにつづけた。八月い
はいに引越すが、あつたは
貿易会社が高級分譲アパート
を建てあつて。

東京のお寺
大山のふもとへ引越し

史跡「其角の墓」も一緒に

伊勢「俗悪」な都会にさらば

人口増加、交通機関の発達、公害、都会の汚染、あつたが、東京の有名お寺が引越す。東京都区部芝一本榎本町二七の吉等寺、伊勢の有名お寺が引越す。東京都区部芝一本榎本町二七の吉等寺、伊勢の有名お寺が引越す。東京都区部芝一本榎本町二七の吉等寺、伊勢の有名お寺が引越す。



どんどん運び込まれる墓石(一部は建立)



東京都の史跡でもあった宝井其角の墓

吉等寺は元來、小田原にあったが、徳川で千七百代。この
徳川東康の山原氏の時、当時、徳川時代の有名な俳人宝井其
角の墓も大がかりな引越し。角、剣術師又は、丸橋忠弥、
などから江戸へ移された。徳川を去った。徳川を去った。
人口増加、交通機関の発達、公害、都会の汚染、あつたが、東京の有名お寺が引越す。東京都区部芝一本榎本町二七の吉等寺、伊勢の有名お寺が引越す。東京都区部芝一本榎本町二七の吉等寺、伊勢の有名お寺が引越す。東京都区部芝一本榎本町二七の吉等寺、伊勢の有名お寺が引越す。

伊勢原移転作業中

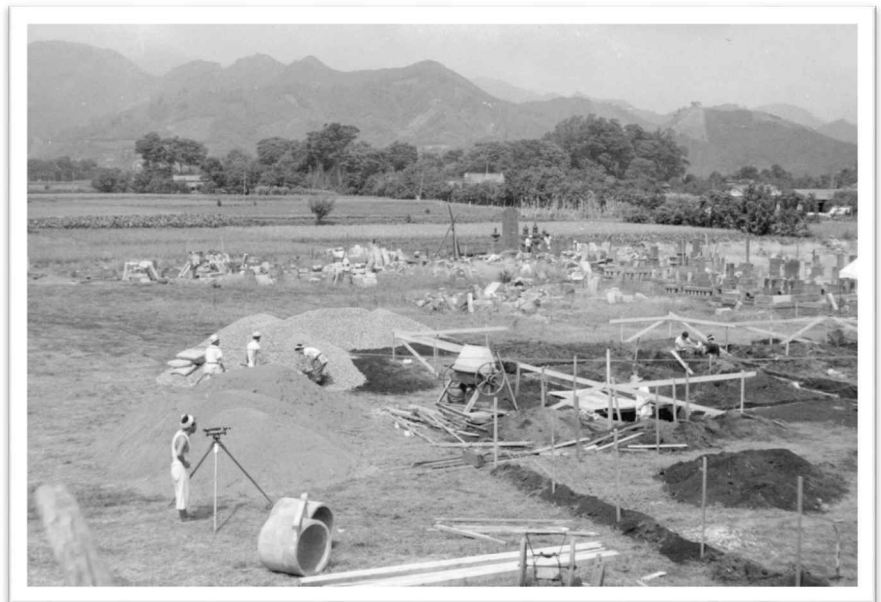


昭和 36~7 年頃

麦畑の中へ墓地の建設

昭和 36~7 年頃

一面何もない麦畑を造成・墓地再建
最初の堂宇建築工事



昭和 36~7 年頃

麦畑の中へ最初の建物の基礎工事中
何もかも手作業で行う



昭和 36～7 年頃

墓石を東京の時と同じ様に
再建中

麦畑の為木1本も無く暑さに
耐えて作業中



昭和 36～7 年頃

毎日新聞の取材
住職と役員、石材店社長と職員
車の上は毎日新聞社員
当時毎日新聞は上行寺移転に
際し大変好意的に扱ってくれる

新聞取材写真

住職トラックの上で前を見据
え仁王立ち

毎日新聞・毎日映画ニュー
ースで使用。当時話題にな
った写真



昭和 37 年頃

施餓鬼法要？お盆？
塔婆に武田家・田村家・竹内
家と読める

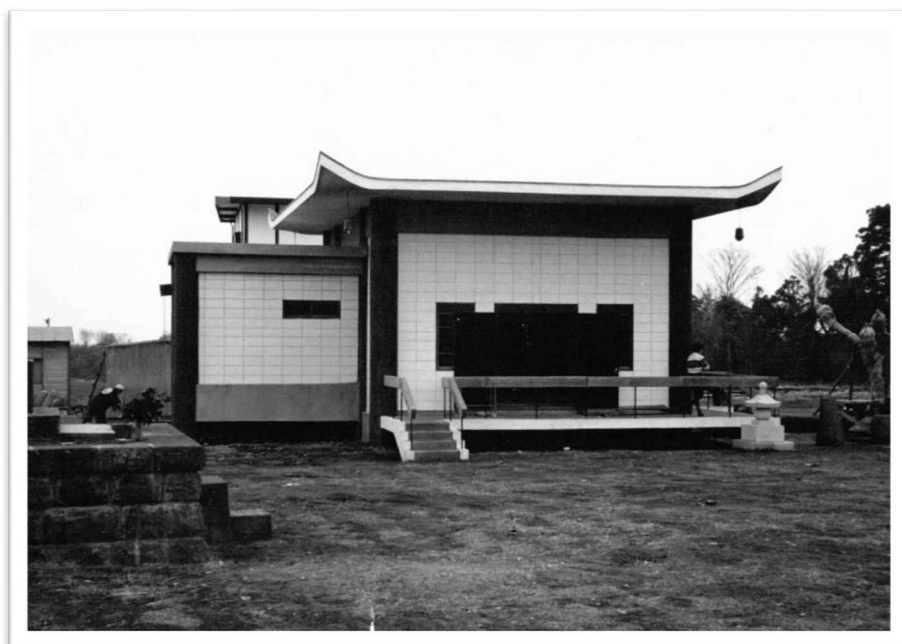


昭和 38 年頃

伊勢原最初の建物遠景
現奥井石材方面より写す

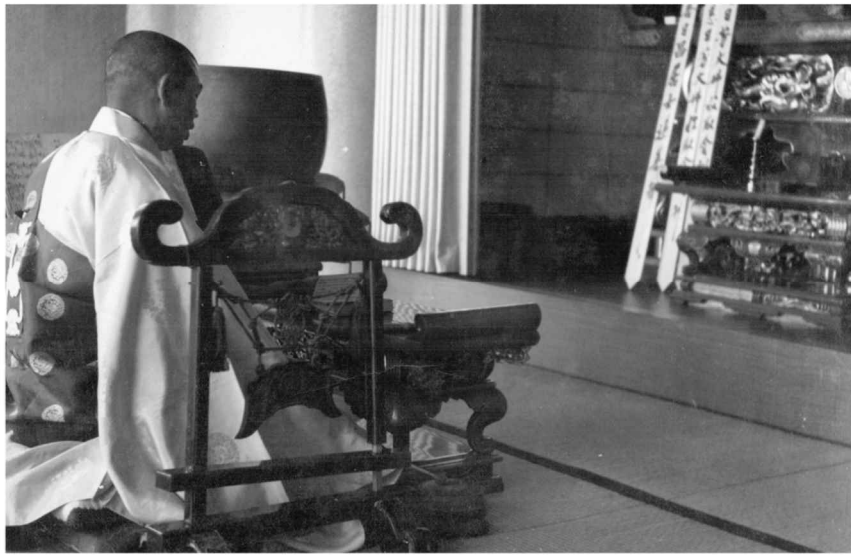
昭和 37 年秋～冬

最初の本堂を大山側より
手前左無縁塔



昭和 38 年
開堂当寺の御宝前

須弥壇もなく、日蓮大聖
人像も低い位置で
仏具その他も東京のまま
木柱もなし



昭和 38 年頃

伊勢原開山後住職最初
の本堂で読経中
写真の住職右にある磬は
旧座敷に展示中

昭和 41 年 8 月 14 日

伊勢原移転後本堂前にて
法要記念写真
故伊沢栄次郎氏納骨法要





昭和 43 年頃

再建築した現本堂
 昭和 38 年に建て 5~6 年
 で建て直す
 額の上行寺は最初の本堂
 の額と同じ 37 代智道院日
 誠上人筆

【9】 11版 昭和48年(1973年)12月9日(日曜日)

万博のソ連館に似たモダンな本堂。でも完成は10年前だから、こちらの
 方が先だとか。ユニークな寺だ —富士山上行寺—

「かきわの寺」

遊女も迷わず成仏

「遊女も迷わず成仏」の題名は、この寺の歴史を語る上で欠かせない。かつては遊女が成仏の道を探し求め、この寺に参詣したと伝えられている。その歴史は、この寺のユニークな魅力の一つである。

この寺は、昭和38年に再建築された。その建築様式は、モダンで、ソ連館に似たデザインが特徴的である。しかし、その歴史は古く、37代智道院日誠上人の筆で書かれた額が、現在も本堂の入口に掲げられている。

この寺の歴史は、この寺のユニークな魅力の一つである。かつては遊女が成仏の道を探し求め、この寺に参詣したと伝えられている。その歴史は、この寺のユニークな魅力の一つである。

この寺の歴史は、この寺のユニークな魅力の一つである。かつては遊女が成仏の道を探し求め、この寺に参詣したと伝えられている。その歴史は、この寺のユニークな魅力の一つである。

伊勢原移転後の新聞

現在の上行寺 本堂 新客殿

本堂と新客殿

以前ありました池の上に
新客殿を建設



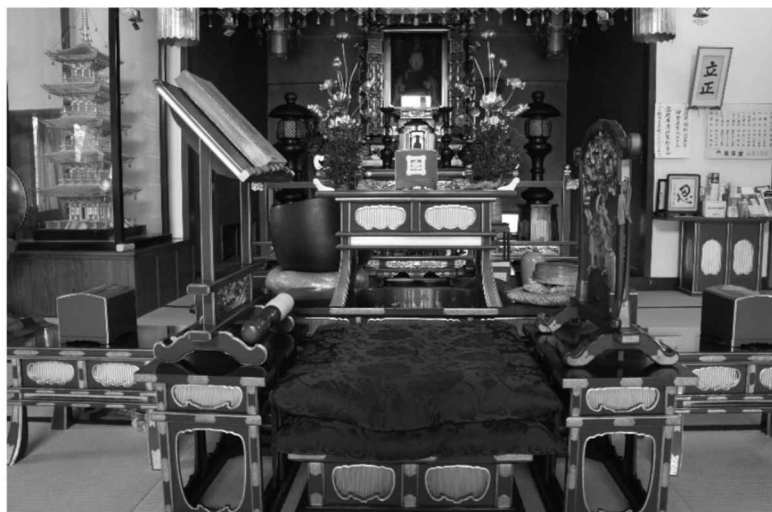
新客殿

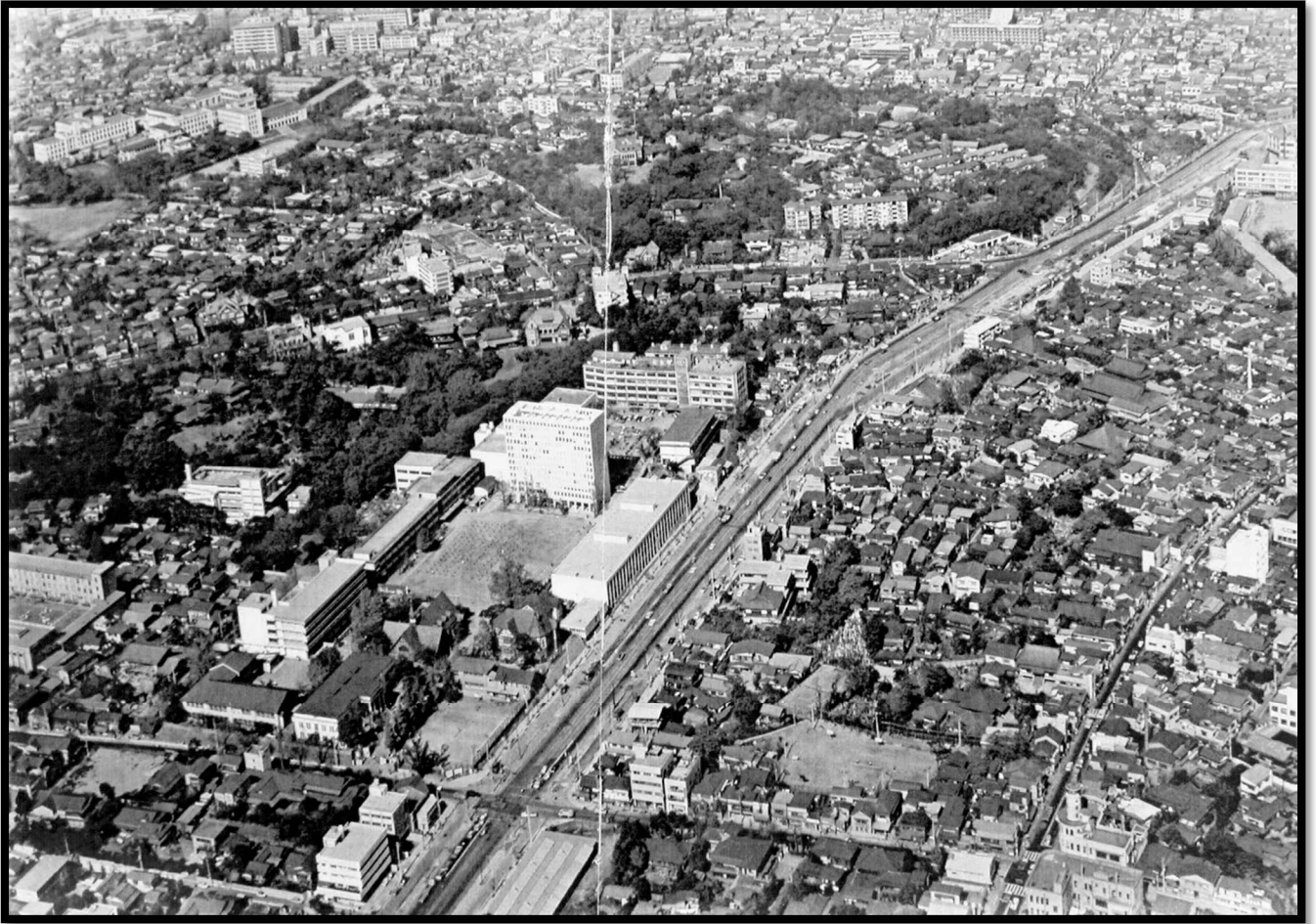
唐破風造りの屋根が
特徴です



現本堂内陣

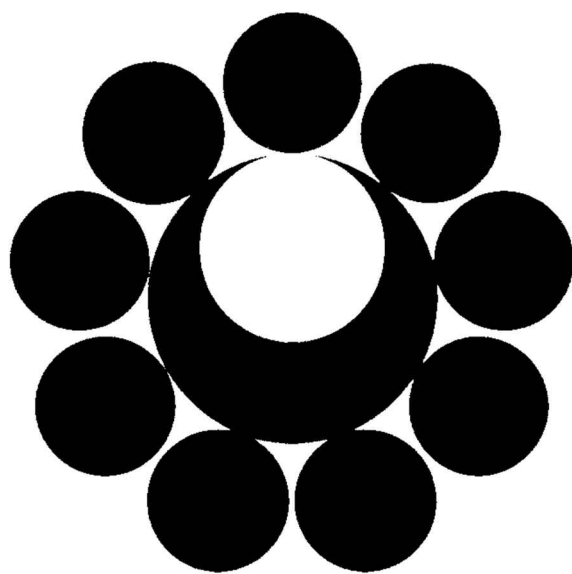
伊勢原移転当時より仏具が
増えました
日蓮大聖人御影像宮殿は
先代日誠上人奉納によるも
のです





1968年頃の高輪

右下には高輪消防署が見え、中心に見えるのは明治学院大学です。ちょうど中間の空き地が二本榎上行寺跡地です
写真提供山田一幸氏



平成二十六年八月三十日

新客殿落慶の砌

富士山上行寺